

通訳案内士試験道場中国語で学ぶ日本③中四国解答例

松山

- ①美しくひっそり静かな/落ち着いたこの街では、ちんちん電車（路面電車）が主な交通機関（手段）である。
 - ②古色古香 古い味わいのある/古き良き味わい
 - ③ここでは清潔な浴衣とタオル（手ぬぐい）を貸し出していて、気持ちよく一風呂浴びることができる。
 - ④オフシーズン（閑散期）でも、一日中人の流れは途切れない。
 - ⑤俳句は日本伝統の短い詩で、わずか十七の音節で構成されていて、季語も含まれる。
 - ⑥句は短い、練り上げた言葉がむしろ作者の気持ちと奥深い思想を凝縮して/ぎゅっと詰まっている。
 - ⑦松尾芭蕉が日本各地を遍歴（行脚）しながら残した紀行文の一つである。
 - ⑧通俗易懂 誰にとっても分かりやすい
 - ⑨弦外之音 言外の意味・含み
 - ⑩俳句には韻を踏んだりする複雑なルール/決まりはない。
 - ⑪やや風刺をこめたユーモア小説「坊ちゃん」
 - ⑫一本気（竹を割ったよう）な青年
 - ⑬彼と意気投合し、力を合わせて上司に立ち向かう
 - ⑭表里如一 裏表のない
- 17 彼らと水と油のように相いれない教頭はきれいごとばかり言う腹黒い人物だ
- ⑮教頭におべっかを使い（こびへつらい）、彼の手先になる美術教師、またどっちつかずの校長
 - ⑯非常に個性的な（アクが強い）キャラクター
 - ⑰ぬくもりを感じさせてくれる心の故郷である。

出雲・松江と小泉八雲

- ①山清水秀 山紫水明/風光明媚
- ②男女の仲を取り持ってくれる、縁結びの神
- ③このように壮大な神社が建てられるのかどうか。これはかつて多くの研究者が疑問を呈していたことだ。
- ④そして古文書に記載されているその巨大な建築はもしかしたら存在したのかもしれない、ということで、世の人々の注目を集めた。
- ⑤晴れの日には美しいことこの上ない夕陽が湖面に映え、曇りでも霧（もや）が立ち込め、また格別な風情である。
- ⑥この湖は水が流れていて、橋が数本南北にかかっている。その下流にあるのが島根の県庁所在地、松江市だ。

- ⑦松江は蘇州にもたとえられる詩や絵になりそうな水の都である。縦横に行きかう堀は、松江の交通手段として役立っている。
- ⑧当時彼がこの極東の神秘的な国に来たのは、単に創作のインスピレーション/ひらめきと新しい文学的素材を見つけるため、ここで放浪の半生に終止符を打ち、日本で晩年を送ろうとは思っていなかった。
- ⑨しかし住めば都で、彼は松江滞在時にこの素朴で飾り気のない気風とおとなしい（素直な/やさしい）民衆に強く心を打たれた。
- ⑩詩的な味わいのある松江と出雲の田舎をテーマとして、
- ⑪自分が死んでから、遺産を日本の妻子に残せるように、彼は小泉家の養子になって帰化し「小泉八雲」と名乗ることに決めた。
- ⑫日本文化に心惹かれた（傾倒した）作家でもあり、学者でもある。
- ⑬何を考えているかわけが分からない
- ⑭よってたとえ取り乱しているときでも顔にはちゃんと笑顔を浮かべるのだ。これはごまかしなどではなく、相手のことを思いやっているのである。
- ⑮外国人にとって日本人の多くは何をするにも引っ込み思案で、風変わりな習慣を守っているように見えるため、日本人の心の奥底は理解しがたい。
- ⑯日本人でもうまく説明がつかない日本の風習
- ⑰日本を利用してうまい汁を吸うにすぎない。

広島

- ①ゴジラは元々水爆実験により偶然に生まれた怪獣だ
- ②無情に町を破壊した。
- ③そこはかつて長崎とともに、思いもよらぬことに原爆を投下された。
- ④あたり一面たちまち見るに忍びない一面の死の海と化し、同時に 15 万もの尊い命を奪った。
- ⑤たとえ血の海の中、嗚咽して（泣き叫んで）助けを求める人をみても救いの手を伸べることができない。自分のことで精いっぱいなのだ。
- ⑥習以为常 慣れっこになる
- ⑦原爆は罪のない人々の家をめちゃくちゃにし、死んだほうがましだというような思いまでさせた。また彼らの心にこの上なく深い傷をおわせた。
- ⑧雪上加霜 追い打ちをかけるように
- ⑨九死に一生を得た人々も、放射能の後遺症に直面した。
- ⑩千羽の折鶴を糸でつないで「千羽鶴」を作る。
- ⑪それは元々病人にあげて早くよくなることを祈るものだったが、後に多くの子供が放射能のため亡くなったので、それを子供の彫像の足元にそなえ、平和を祈るようになったのだ。
- ⑫追悼式典

- ⑬彼らの魂があので安らかに眠られるように祈るのだ。
- ⑭今は平和なこの地で、かつては身の毛もよだつほどのこの世の地獄（惨劇）が繰り広げられたということを、我々は決して忘れてはならない。
- ⑮东山再起 立ちなおる

吉田松陰

- ①現代人にはこの萩のような小さい町から、かつて近代日本史上の風雲児たちを輩出したことが想像しがたいかもしれない。
- ②英国は緒戦で圧勝し、列強は中国の国土を侵略・分割し始めた。
- ③列強は虎視眈々と日本をねらい、江戸幕府は目覚めざるをえなくなった。
- ④軟弱で弱腰な江戸幕府と強圧的な列強によって、吉田松陰は危機感を抱かざるをえず（足元に火がつき）旧態依然とした考えの幕府を倒すことにした。
- ⑤当時の思想的リーダーであった松陰は、萩に戻り、一棟 50 平米だけの木造平屋建ての塾で教鞭を取った。
- ⑥彼は並みならぬ気概の持ち主で心意気と志あふれる人物だった。よって多くの闘志あふれる侍たちが彼を慕い弟子となった。
- ⑦ずっと草深い僻地/在野にあっても彼はたゆまず向上しようとし、自己研さんに努めた。こうして教鞭をとる時にも深い内容もかみくだいて、わかりやすく教えた。
- ⑧近朱者赤，近墨者黒 朱に交われば赤くなる
- ⑨彼の思想の影響で多くの熱血漢たちが志士となった。
- ⑩維新の中心人物がまだ「青二才」だったころ
- ⑪畳の上で死ぬ（大往生でき）なくても、世のため人のためなら喜んで命を捨てようと普段は言いつつ、両親に親孝行できないことが恥ずかし/やるせなかった。
- ⑫ 后继有人 跡を継ぐ者がいた
- ⑬討幕派が何度かの戦の教訓をまとめて分かったことは、開国して国費留学生を派遣することで欧米に学び、富国強兵を行うことでしか列強に対抗することはできないということだった。
- ⑭このようなのんびりした中でも過ぎ去った日々の脈打つ音がするのだ。

日本史の名脇役、瀬戸内海とその海の民

- ① 見飽きることはない
- ②潮の流れは穏やかだが、急になるところもある。
- ③かじ取りが潮の流れに熟知していなければ潮に流される恐れがある。
- ④潮の流れに熟知した瀬戸内海の海の民を味方につけなければ
- ⑤この周辺海域では数多くの政界や宗教界の指導者を生み出した。
- ⑥彼らはこの海域が強くて豊かな唐とつながっていると実感していたことだろう。
- ⑦朝廷という「陸地の王」は、純友という「海の王」を平定するのに心血を注いだこと

が見て取れる。

- ⑧彼は各地に税関を置いて徴税し、神戸港を国際港として開いた。
- ⑨生まれた子ども、すなわち次の天皇を操り、朝廷のまつりごとを独占する
- ⑩第三者を利用して敵を倒す
- ⑪天下統一を図った織田信長さえも大敗を喫した。
- ⑫いつの時代であってもいかにして瀬戸内海の民をてなすける（懐柔する）かというのが陸の王の悩みの種であった。
- ⑬見方を変えると
- ⑭将軍の代が変わるたびに朝鮮は祝賀のための使節団を送った。
- ⑮通り道
- ⑯絶賛する
- ⑰明治維新のゆりかご（ふるさと）
- ⑱列強に対し素早く対処できたのも彼らが海の民だったからである。
- ⑲「名脇役」だったのはこの穏やかな海の民だったのだ。

通訳案内士試験道場中国語で学ぶ日本③中四国 氏名

① 路面電車／交通機関	
② 古い味わいのある（成語）③浴衣をレンタルする	
④オフシーズン	
⑤俳句（20字前後の中国語で説明せよ）	
⑥凝縮／⑦行脚／紀行文	
⑧誰にとっても分かりやすい／ ⑨言外の意味（各成語）	
⑩韻を踏む/複雑なルール	
⑪やや風刺をこめたユーモア小説	
⑬彼と意気投合し、力を合わせて上司に立ち向かう	
⑭裏表のない 17 水と油のように相いれない（各成語） 教頭/きれいごとばかり言う腹黒い人物。	
⑮おべっかを使い、彼の手先になる	
⑮どっちつかずの（成語）/ ⑯アクが強いキャラクター	
⑰ぬくもりを感じさせてくれる心の故郷	
① 風光明媚（成語）②縁結びの神	
③このように壮大な神社が建てられるのかどうか。	
④もしかしたら本当に存在したのかもしれない。	
⑤美しいことこの上ない夕陽が湖面に映える。	

⑤霧が立ち込め、また格別な風情である。	
⑦詩や絵になりそうな水の都/縦横に行きかう堀	
⑧インスピレーション/放浪の半生/晩年を送る	
⑨住めば都/素朴で飾り気のない気風/おとなしい民衆	
⑩彼は小泉家の養子になって帰化した	
⑫日本文化に心惹かれる作家でもあり、学者でもある。	
⑬何を考えているのかさっぱりわけが分からない (歇后语)	
⑭これはごまかしなどではなく、相手のことを思いやる行為なのである。	
⑮何をするにも引っ込み思案で、風変わりな習慣を守っている。	
⑯日本人でもうまく説明がつかない日本の風習	
⑰うまい汁を吸う	
① 水爆実験/③思いもよらぬ/原爆が落ちる	
③ たちまち見るに忍びない一面の死の海と化した	
④ 十五万もの尊い命を奪った。	
⑤ 救いの手を伸べられない/ 自分のことで精いっぱい (成語)	
⑥慣れっこになる/⑦死んだほうがまし (各成語)	
⑧更に悪いことに/⑨九死に一生を得る (各成語)	
⑩⑪千羽鶴 (20-30 字の中国語で説明)	
⑫追悼式典/	
⑬あの世で安らかに眠られるように祈る	

⑭身の毛もよだつほどのこの世の惨劇	
⑮立ち上がる（成語）	
① 風雲児/②緒戦で大勝する（対になる成語）	
⑥ 軟弱で弱腰な江戸幕府／危機感を抱く（成語）	
⑦ 木造平屋建ての塾/⑥侍が彼を慕い弟子入りする	
⑦草深い僻地にいるが/深い内容も易しく説く（各成語）	
⑧ 朱に交われれば赤くなる（対になる成語）	
⑨ 熱血漢/⑩中心人物/青二才/⑪畳の上で死ぬ（比喩）	
⑪ 世のため人のため命を捨てる（成語）	
親孝行できないのを恥じ入る/⑬討幕派/開国/	
① 見飽きることはない/③かじ取り/潮の流れ	
③潮に流される/④海の民を味方につける	
⑦見て取れる（成語）⑧徴税する/	
⑨天皇を操り朝廷のまつりごとを独占する	
⑩ 第三者を利用して敵を倒す（成語）⑫いつの時代でも	
⑫彼らをしてなずける政策をとる/⑬見方を変える	
⑮通り道/⑯絶賛する（各成語）/⑰ゆりかご/⑱脇役	